

ながぬま



— トマト・ブロッコリー共選開始 —

農産物共選作業スタート

野菜類の共選作業が始まりました。

ブロッコリーは6月9日、トマトは6月21日、花きは6月22日からそれぞれ共選が開始され、道内を始め全国の消費地へ出荷されます。



ブロッコリー共選



トマト共選



花き共選

経営所得安定対策交付申請手続き・農産物出荷契約受付・営農資材取りまとめ受付実施

5月29日から6月2日の5日間、2階大会議室で経営所得安定対策交付申請手続き・営農資材取りまとめ受付、2階第1会議室で農産物出荷契約受付が実施されました。



経営所得安定対策交付申請手続き



営農資材取りまとめ



農産物出荷契約受付

長沼農業振興戦略会議を開催

6月20日、JAながめま大会議室にて長沼農業振興戦略会議を開催しました。

この会議は、長沼町産業振興課・普及センター・JAながめま関係部署の総勢30名で構成されております。

持続可能な農業の実現と本町農業のさらなる発展を目指し、農業所得の向上に向けた取組方策（販売戦略等）が検討

され、長沼農業が最優先で取組む事項など、活発な意見交換がなされました。

会議は6月から10月まで毎月1回開催し、農業振興に取組んでいます。



廃ビニール、廃プラスチックの回収を実施

6月6日から8日までの3日間、農業用廃ビニール・廃プラスチックの回収を麦バラ施設構内で実施しました。

回収実績は、廃ビニール約61t、廃プラスチック約82tとなりました。

次の廃ビニール、廃プラスチックの回収は11月を予定しております。



年金友の会 パークゴルフ大会開催

6月14日、長沼町総合公園・運動広場パークゴルフ場において、第28回年金友の会パークゴルフ大会が開催されました。



資材部 夏の噴霧器・刈払機展示会の開催

6月2日、JAながめま資材センター横駐車場で3年ぶりに農機具（噴霧器・刈払機）の展示会が開催されました。

当日は、小雨の降る中、噴霧器・刈払機などを求め、沢山の方が訪れました。

型落品やチップソーのまとめ買いをするお客さんもおられ大盛況な展示会となりました。



当日は恵まれた天候のなか熱戦が繰り広げられ、会員相互の親睦が一層深まりました。
今大会の優勝は栄町区 中野芳蔵さん、宮下区 石田秀子さんとなりました。

4年ぶりの夕やけ市での豆腐販売

5月27日、長沼町本通商店街で開催された夕やけ市でJAながめま青年部オリジナル豆腐「誉とうふ」の販売を4年ぶりに行いました。

今年の夕やけ市では、5月と6月の計2回を予定しています。

青年部は平成23年から長沼産大豆のブランド化を目的に大豆PRの一環として豆腐の販売を行っています。



今後は、6月の夕やけ市他に8月に開催される「ながめまマオイ夢祭り」や10月上旬頃に開催予定の「JAながめま青年部収穫祭」でも販売する予定です。

青年部部員視察研修開催

6月14日、青年部部員視察研修を実施し、部員36名が参加しました。



今年の春に完成したFビレッジにあるエスコンフィールドのスタジアムツアーに参加しました。このツアーでは、ファイターズグラウンドやベンチの中などの普段立ち入ることのできない場所まで、とても有意義な体験ができました。また、Fビレッジ内にある北海道クボタの農業学習施設を訪れ、最新のスマート農業設備を利用した栽培環境を見学しました。

視察研修終了後には懇親会を行い、部員間の親睦を深めました。

小学生と大豆播種

6月16日、JA青年部農産部プロジェクトは長沼小学校で3年生57名により大豆の播種作業を行いました。

長沼小学校の3年生は、地域の代表的な作物である大豆について学習を深め、大豆作りに関わる人たちの苦労や思いを学んでいます。

この日は、青年部員が播種の方法などを説明し、児童らは、大豆「トヨムスメ」一粒ずつ丁寧に播種しました。

今後は、実際に大豆作りを行っている青年部員のほ場や農業機械の見学を行い、長沼の農業について学んでいただきます。



女性部活動報告

◆春季研修旅行

6月15日、女性部では春季研修旅行（参加60名）を実施しました。ロイズカカオタウンで買い物、佐藤水産での昼食、そして、エスコンフィールドの見学（ファイターズガールが案内）と隣接している北海道クボタの農業学習施設の見学など充実した1日となりました。佐々木洋子女性部長は「天気にも恵まれ、楽しい1日を過ごせました。これからも学んで楽しめる企画をしますので皆さんまた参加してください。」と参加者に述べられました。



◆フレッシュミズ部会「春季研修旅行」

6月13日、フレッシュミズ部会では春季研修旅行（参加22名）を実施しました。午前は北海道神宮へ参拝、おみくじを引き絵馬を書くなどして過ごしました。午後からは5月にリニューアルした札幌市民防災センターで見学体験をしました。地震体験は震度7まで強風は30mまで体験しました。長沼町も地震や強風があるところなのでこの体験で備えや準備が大切なことを改めて認識しました。



◆花、野菜苗の寄贈「ひまわり部会」「コスモス部会」

6月上旬女性部のひまわり部会とコスモス部会の部員が町内の施設「陽風会」「マオイの里」「迎光園」に野菜や花の苗を寄贈しました。陽風会の細木理事長は「毎年たくさんの方から苗を寄贈いただき感謝します」とおっしゃられました。また、マオイの里や迎光園では「花は利用者の癒しです。」と喜んでいただきました。



不要農薬回収のお知らせ

皆さまが購入した未使用のまま長期保管している不要農薬を生産現場から一掃し、安全・安心な農産物を生産するため不要農薬の回収を実施しますのでご案内いたします。

- ◆**申込期日** 令和**5**年**7**月**14**日(金)まで 申込書を資材センターへFAXしてください
- ◆**回収日程** 令和**5**年**7**月**21**日(金) 午前9時～午後4時まで(全地区)
- ◆**回収場所** 本所資材センター
- ◆**注意事項**
 1. 印鑑と委任状を持参願います。
 2. 包装が破損している場合については飛散しないよう、袋などに入れてください。
 3. 不明農薬(ラベルのないもの、品名の判読ができないものなど)は回収できません。
 4. 処理費用の精算については、確定金額を通知後経理となります(12月上旬予定)。

不要農薬処理料一覧表

(kg当り・税込)

農薬区分	処理料金	農薬区分	処理料金
一般農薬	979円	チウラム	20,350円
硫黄	1,100円	シマジン	20,350円
ヒ素	20,350円	ベンチオカーブ	20,350円
水銀	20,350円	ポップス	20,350円
鉛	20,350円		

【一般農薬】

硫黄、ヒ素、水銀、鉛、チウラム、シマジン、ベンチオカーブ、ポップス、PCP、PCNBの成分を含まない農薬。

お問い合わせ先 本所資材センター TEL88-2307 FAX88-0748

令和5年度

ながめま農協外郭団体のご紹介

組 織 名	代 表 者	会員数	組 織 名	代 表 者	会員数
ながめまクリーンライス生産協議会	柴田 佳夫	307	長沼町園芸組合連合会	荒井 利夫	385
ながめま健康米部会	朝日 勤	7	園芸連青年部	坂下 大貴	14
『ゆめぴりか』生産部会	石尾 大介	194	トマト生産組合	秋葉 信勝	70
ながめま麦・大豆生産流通協議会	服部 正幸	388	南瓜生産組合	寺崎 証也	14
長沼町甜菜振興協議会	道原 孝則	16	キタアカリ部会	阿達 昌之	10
ながめま農協小麦採種組合	四釜 宣秋	9	きゅうり生産組合	高橋 博樹	14
ながめま農協大豆採種組合	木村 泰法	10	長葱生産組合	間嶋 良春	23
ながめま農協米作研究会	尾崎 裕司	18	アスパラ部会	高木 篤志	40
ながめま和牛改良組合	井形 博志	10	インゲン生産組合	大波 秀寿	9
(社)岩見沢地方法人会長沼農業地区会	福島 哲哉	20	いちご部会	南 貴浩	11
ながめま農協営農集団協議会	真田 隆弘	31	ブロッコリー生産組合	阪 清嗣	127
ながめま農協青年部	富澤 正義	67	スイートコーン部会	鈴田 英隆	5
JAながめま女性部	佐々木洋子	145	契約スイートコーングループ	村田 政則	17
フレッシュミズの会	鈴田 圭子	31	白菜部会	田邊 淳	29
長沼町養豚協会	山口 学	6	軟白長葱グループ	中崎 秀夫	2
長沼町酪農ヘルパー組合	廣田 睦男	6	ホクレンショップ直売部会	佐々木裕太	6
長沼町玉葱生産組合	真田 隆弘	24	長沼町花き生産組合	間島 俊見	20
ながめま農協種いも採種組合	中原 幸弘	16			

ファームステイ受入式

長沼町グリーン・ツーリズム運営協議会

長沼町グリーン・ツーリズム事業による農業体験が5月26日より始まりました。
今年の第1陣となったのは、札幌市立羊丘中学校の生徒227名による田植え体験です。
5月26日に、2軒の受け入れ農家に分かれ、田植え作業を行いました。
今年度は道外の修学旅行生の農家民宿を6校271名、道内の修学旅行生・宿泊研修の日帰り農業体験を3校540名の受入を予定しています。

令和5年度グリーン・ツーリズム事業について

【農家民宿～修学旅行の部】

	日 程	学校所在地	学 校 名	宿泊数	受入数(人)
1	令和5年 6月16日(金) ～17日(土)	大阪府	淀川清流高校	1	29
2	令和5年 6月21日(水) ～22日(木)	京都府	京都すばる高校	1	62
3	令和5年 7月3日(月) ～5日(水)	大阪府	桃山学院高校	2	41
4	令和5年 7月11日(火) ～13日(木)	長崎県	長崎農業大学	2	37
5	令和5年 7月24日(月) ～26日(水)	東京都	ドルトン東京学園	2	40
6	令和5年 10月10日(火) ～11日(水)	神奈川県	茅ヶ崎高校	1	62
合 計 1 中高一貫校・4 高校・1 大学					271

【日帰り農業体験】

	日 程	学校所在地	学 校 名	受入数(人)
1	令和5年 5月26日(金) 10:00～12:00	北海道	札幌市立羊丘中学校	227
2	令和5年 5月28日(日) 10:00～16:00	大阪府	貝塚市立第4中学校	101
3	令和5年 9月7日(木) 11:00～	東京都	帝京高校A	107
4	令和5年 9月8日(金) 11:00～	東京都	帝京高校B	105
合 計 2 中学校・1 高校				540
合 計				811



田植え体験



アスパラ収穫体験



生産者と挨拶する学生

令和5年度 長沼町グリーン・ツーリズム事業 受入開始

7～8月の秋小麦栽培ポイント

今年（平年）の生育期節（きたほなみ）

出穂期 5/29 (6/1)	出穂揃 6/1 (6/4)	乳熟期 (6/26)	成熟期 (7/17)
----------------	---------------	------------	------------

秋小麦の生育（6月15日現在）は、平年より3日早い

1. 適期収穫

成熟期とは、子実水分が40%となった日であり、収穫開始時における子実水分の上限は35%です。コンバイン収穫の目安は、子実水分が30%以下で行うことを目標とします。

(1) 子実水分による収穫開始時期の判断

子実水分が35%になる時期は、葉が枯れ、穂首は完全に黄色になり、粒色は鮮明で、子実をツメでちぎるとことはできるがやや抵抗を感じる固さの状態です。

収穫開始時期は、出穂期後25～30日頃に穂水分計測することによって予測する「穂水分による小麦の成熟期予測」が有効です。

「ゆめちから」は「きたほなみ」より穂水分低下程度がやや小さいので、成熟期2～3日後に収穫可能。

※ 成熟期後の穂水分低下率（3～5%）
 きたほなみ 4.56% ゆめちから 3.69%

(2) 適期刈り取りへ向けた下見による確認

7／上中旬（12日～）より各下見検査場で確認し、刈り取り日を予定する。

2. 土作り・・・収穫後に緑肥「エン麦」を栽培しよう

短期間で生育の旺盛な緑肥「エン麦」を小麦収穫後、早々には種し土作りを目指しましょう。「エン麦」の根は、普通の土壌では1m程地下に深く入り込み、地下に根が枯れた後に気相の穴を作り土壌の団粒構造を形成し土壌改善につながります。

また、土壌に鋤き込まれた緑肥作物は微生物に分解され、腐植となり土壌の保肥力を増大させます。したがって、鋤き込みエン麦を土壌になじませるためにも裁断して鋤き込んでください。

主な緑肥エン麦等の栽培ポイント

種類（品種）	10aは種量	施肥窒素	は種時期	すき込み時期
エン麦（スワン）	15～20kg	4～6kg／10a	7月下旬～8月中旬	10月上旬～中旬
エン麦野生種（ハイオーツ）	10～15kg	5kg／10a	7月下旬～8月中旬	10月中旬

7～8月の水稲栽培ポイント

1. 水稲の生育は（6月15日現在）、平年並です。

2. 水管理

(1) 前歴期間の水管理（幼穂形成期から10日間程度）

- ① 幼穂形成期から5日間（前半）は5cm程度、6～10日間は10cm程度の水深とします。
 ※ 幼穂形成期 平年7／2
 特に茎数の少ないほ場では、前半の浅水管理で茎数確保に努めてください。
- ② 水温低下を避けるため、早朝入水を心がけ徐々に水深を深くしましょう。
- ③ 前歴期間は、花粉を増やすため非常に重要で、不稔の軽減につながります。

(2) 冷害危険期の水管理（前歴期間終了から7日間程度）

- ① 水深は20cm程度を目標に深水管理にしましょう。
- ② 冷害危険期の目安は、葉耳間長がプラスマイナス5cmの間です。

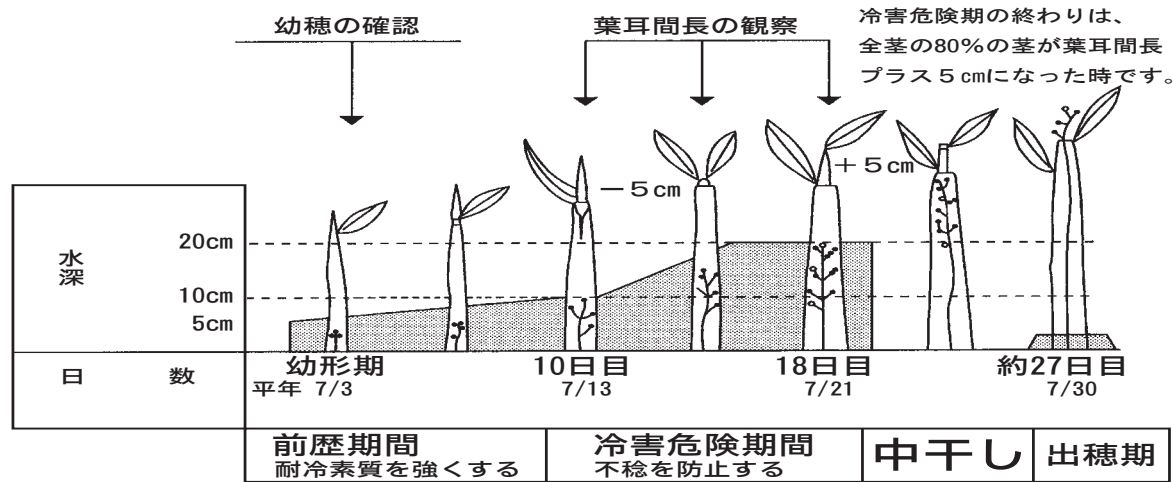


図 幼穂形成期から出穂までの水管理（平年値：成苗ななつぼし）

3. 病虫害防除

(1) いもち病

昨年いもち病が発生した水田や近隣の水田、風通しが悪い水田や葉色が濃い水田など、発生しやすい水田では水面施用剤を7月上旬までに施用しましょう。
出穂期には、カメムシ防除と同時にいもち病防除は必ず実施してください。
 出穂防除後、予察で発生してない場合は、2回目の防除は省略可能です。

(2) カメムシ防除

カメムシ（アカヒゲホソミドリカスミカメ）の基幹防除は、出穂期とその後7～10日の2回です。出穂期以降すくい取り調査を行い本田内と畦畔のカメムシ発生状況を把握しましょう。

表 出穂期までの主ないもち病およびカメムシ防除農薬（栽培基準より）

7月上旬まで	出穂期	出穂期防除後7～10日
水面施用剤（いもち病） コラトップ	（いもち病・カメムシ） ダブルカットレボン ビームエイトレボン ブラシダントツ	（カメムシ） スタークル ダントツ キラップ

※ 10a 当り使用量および使用倍率など詳細は、令和5年度水稲栽培基準を参照

(3) カメムシ防除

大豆子実を加害する時期は、カメムシ類の種類によって若干異なるが、8～9月に発生した新成虫が加害する。特に、8月中旬～下旬のマメシクイガ防除時にカメムシにも効果ある殺虫剤を使用していれば、マメシクイガの防除期間中は同時防除が可能です。

(4) ハダニ防除

ハダニは、高温（30℃を超え）少雨の条件で発生を助長します。葉の裏が蜘蛛巣状になっていると、ハダニが発生していると思われます。特に、風通しが悪い。雑木林や雑草地が近くにある場合は要注意です。

表 主な防除薬剤

RAC コード	農 薬 名	使用倍率	使用回数	使用時期
1B	トクチオン乳剤	1000 倍	3 回以内	収穫 30 日前まで
15	カスケード乳剤	4000 倍	2 回以内	収穫 7 日前まで
6	コロマイト乳剤	1500 倍	2 回以内	収穫 7 日前まで

※ トクチオン乳剤、カスケード乳剤はマメシクイガ防除へも可

3. 雑草対策（除草剤）

※ 畦間・株間散布処理（畦間散布 7月中旬以降～8月末）

7月中旬以降になると大豆草丈も30cm以上となり茎葉処理では、効果的な除草剤処理はできません。畦間・株間処理専用機等の処理は、高い除草効果が期待できます。下記の除草剤は、非選択性除草剤です。作物に飛散すると付着した部分に薬害を生じます。

表 有効成分と主な対象雑草への効果の有無

RAC コード	除草剤名	有効成分名	シロザ	タデ類	ハコベ	ツユクサ	1年生 イネ科	10a 使用量	使用時期
10	バスタ液剤	グリホシネート	◎	◎	◎	◎	◎	300 ～ 500 ml	収穫 28 日 前まで
10	ザクサ液剤	グルホシネートP ナトリウム塩	◎	◎	◎	◎	◎	300 ～ 500 ml	収穫 28 日 前まで

※1 飛散防止装置を装着し、作物にかからないように畦間、株間に精度良く散布する

※2 大豆間作小麦栽培予定の場合は、農薬登録より「ザクサ液剤」は使用できない

※北海道農協畑作・青果対策本部決定方針

【大豆栽培におけるグリホサート剤収穫前処理について】

- 「落葉終期～収穫 14 日前」での使用は、品質低下ならびに適用外となるリスクがあることから使用を控えることとする。
- 上記登録内容で使用した場合、JAの大豆共計では取り扱わないこととする。



1. 開花期の追肥（根粒着生確認から）

6月下旬から7月上旬に確認した根粒菌着生数を考慮し、開花始～期（平年7月14～17日）の窒素追肥を行いましょう。

表 6月下旬から7月上旬の根粒菌着生による開花期の窒素追肥の目安

根粒菌着生程度	着 生 数	窒素追肥量	硫安の場合
標準 ～ 多	20 個以上	5 kg / 10a	20kg / 10a
無 ～ 少	0 ～ 20 個未満	10kg / 10a	50kg / 10a

※ 倒伏の恐れがある場合は、追肥は避ける

2. 病虫害防除

ツメクサガ、マメシクイガおよびカメムシによる加害は、収量・品質に大きく影響します。大豆の生育と防除タイミングを見計らって、防除を実施しましょう。

(1) ツメクサガ防除

開花始め頃に発生状況を把握し、防除しましょう。

(2) マメシクイガ防除

大豆の開花始は、平年7月14日です。莢の伸長を確認の上、マメシクイガの適期防除を行い、被害粒の発生を減らしましょう。

【防除の目安】

1 回目：7月末、成虫の飛来や産卵の可能性が高い莢の長さ2～3cmが確認された6日後頃、または開花始から13～14日後頃

※ 大豆生育が平年並の年 1 回目防除時期 7月27～8月1日

2 回目：1 回目防除の10日後頃

3 回目：2 回目防除の7～10日後頃

<防除例>

時 期	RAC コード	農 薬 名	使用倍率	効果発現	残効性
ツメクサガ 7 / 20	1B	エルサン乳剤	1000 倍	速	短
マメシクイガ1 回目 8 / 1	28	プレバソンフロアブル5	4000 倍	速	長
マメシクイガ2 回目 8 / 10	3A	バイスロイド乳剤	1000 倍	速	長
	3A	またはゲットアウトWDG	3000 倍	速	中
マメシクイガ3 回目 8 / 20	3A	バイスロイド乳剤	1000 倍	速	長
	4A	またはモスピランSL液剤	3000 倍	中	長

※ プレバソンフロアブル5は、「カメムシ」に対する防除効果が低い

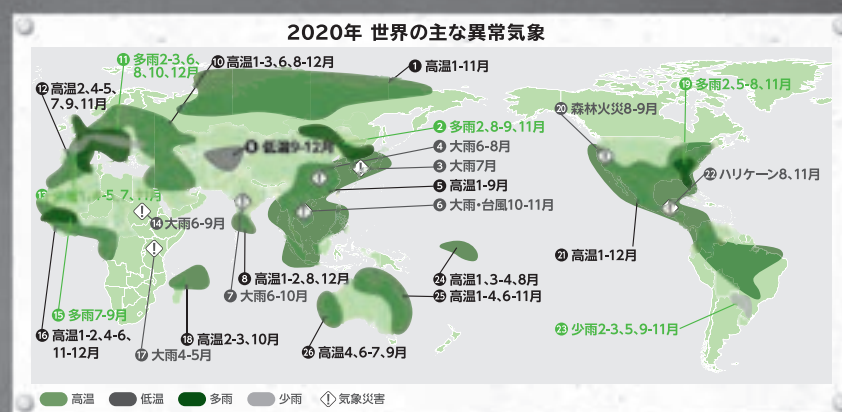
※ 効果発現、残効性は、「くみあい農作物病虫害・雑草防除ガイド」を参考とした

世界的に自然災害が多発 甚大な被害から食料の安定を確保するために

なぜ今?
国消国産

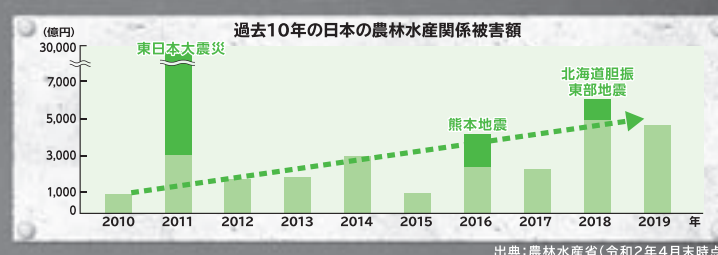
異常気象などの自然災害が、世界の農業を直撃

近年、世界中で異常気象などの自然災害が多発しています。日本が多くの食料を輸入している、米国、中国、豪州、タイ、カナダでも、豪雨、大雨、干ばつなどが起きています。中でも最大の農産物輸入国の米国では、竜巻やハリケーンによって、2017年に3060億ドル(当時のレートで約34兆6000億円、農業被害以外も含む)もの被害を受けました。自然災害による被害は、被災国の国内の食料供給に影響を与えるだけでなく、その国から食料を輸入している日本にとっても大きなリスクとなります。



日本でも多発する自然災害は、大きなリスク

日本においても自然災害は多発しており、農作物だけでなく農地や関連施設にも多大な被害を与えています。自然災害の回数・被害額は増加傾向にあり、2019年の農業被害額は約4883億円にのぼりました。これからの日本の農業にとっても、自然災害が大きなリスクとなっていくことは間違いありません。



だから今!
国消国産

「国消国産」で、日本の食料の安定を

日本だけでなく、世界でも自然災害の発生が続けば、農畜産物が生産できなくなり、価格の高騰が始まり、最終的には食料不足になってしまうリスクがあります。私たち一人ひとりが普段から、「国」民が必要とし「消」費する食料は、できるだけその「国」で生「産」するという「国消国産」の考えを実践していくことが重要です。

- 1 自然災害の頻発で、世界中の農業に甚大な被害
- 2 日本においても自然災害が多発しており、大きなリスク
- 3 食料を輸入に依存することなく、「国消国産」で食料の安定を確保

ここがポイント!

JAグループサポーター・林修



耕そう、大地と地域の未来。JAグループ

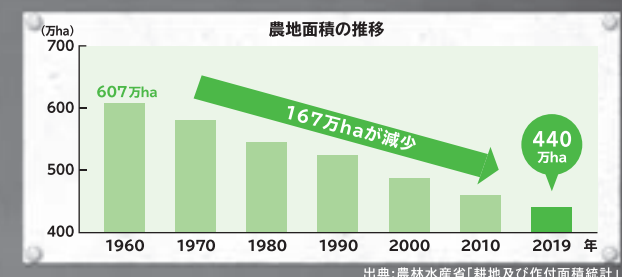
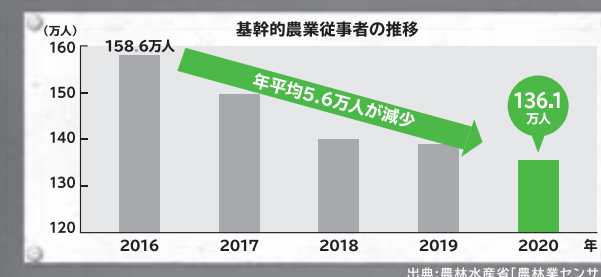
減少を続ける日本の農業従事者 日本の「食」を次の世代につなげるために

なぜ今?
国消国産

毎年5万人以上の農業従事者が減少し続ける日本

左側のグラフは、日本の農業従事者数の推移を表していますが、2016年から2020年の間に、平均で毎年約5.6万人も減少しています。新規就農者も増加していますが、減少するペースには追いつかないのが現状です。また農業従事者の約7割が65歳以上で、

平均年齢は67.8歳(2020年)と、高齢化が進行しています。右側のグラフは、農地の面積の推移ですが、この60年間で約167万ヘクタールも減少しており、これは日本の国土の1/25以上にあたります。



農業生産基盤の弱体化は、今後の日本の「食」にとって大きなリスク

農業従事者の減少や高齢化によって耕作放棄地が増加すると、その土地を再び作物が生産可能な状態にするには、長い時間、手間をかける必要があります。農業従事者の減少と、それによる

農地の減少という農業生産基盤の弱体化は、国内の食料供給量の減少につながる大きなリスクです。

だから今!
国消国産

「国消国産」で、日本の「食」を供給してくれる農業を応援



「国」民が必要とし「消」費する食料は、できるだけその「国」で生「産」するという「国消国産」をみんなですすめていくことが、国内の食料供給を支えてくれている農家と、農業を志す次の世代の背中を押すことになります。農業従事者などの減少に歯止めをかけ、日本の「農業」と「食」の安定をはかっていくことが、私たちの安定した食生活につながります。

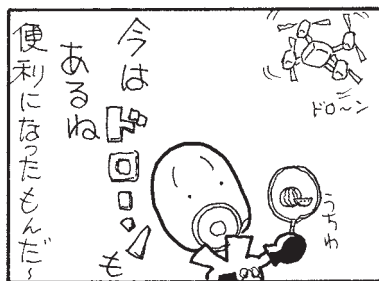
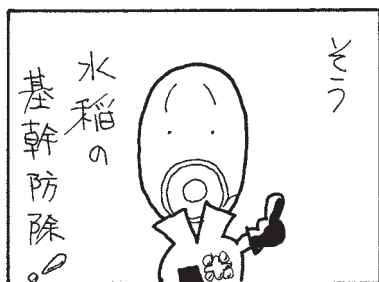
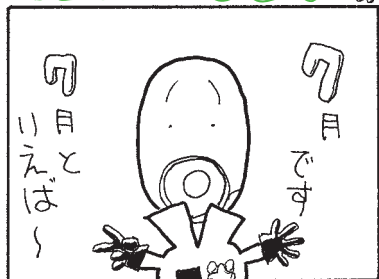
ここがポイント!

- 1 日本の農業生産基盤は弱体化がすすんでいる
- 2 農業生産基盤の弱体化は、私たちの食生活に大きなリスク
- 3 「国消国産」で、国内農業の持続と食料の安定供給を

JAグループサポーター・林修



耕そう、大地と地域の未来。JAグループ



農業の明日をひらく 北海道農業会議が ラジオ番組を提供中!

STVラジオ
月曜～金曜
朝5時45分から

おはよう
農家さん

今日のお天気と
病害虫情報

農家の皆さんの毎日のお仕事に役立つお天気と
病害虫発生情報をお届けしています。

番組内でコマーシャル放送中!

農家の皆さんの年金
農業者年金

- 農家の皆様とご家族を力強くサポート!
- 条件により保険料の国庫補助あり!
- 少子高齢時代に強く安定した年金です!
- 終身年金で80歳までの保証付き!
- 税制の優遇措置があります!
- 保険料の額を選ぶことができます!

詳しくは農業委員会またはJAへ

令和5年度

中央農業試験場公開デー

農業と農業試験場に対する理解の促進を目的に、小中学生や一般道民及び農業関係者を対象に、体験学習等の場として、施設内や試験研究成果などを紹介するイベントです。

日時	令和5年8月3日(木) 9:30～14:00
場所	道総研 中央農業試験場内(長沼町東6線北15号)
内容	◆体験・展示コーナー ◆相談コーナー(作物、土壌、病害虫) ◆ほ場バス見学ほか ※本年度は試食コーナーがありません。
参加費	無料(予約不要。当日、正面玄関にて受付)

お問合せ 中央農業試験場(企画課) TEL 0123-89-2586

自主検査士の紹介



JAの農産物検査については、自主検査士を配置し指導にあたります。
小麦・米の適期刈取指導及び麦バラ施設、米の館での自主検査において指導・検査してまいりますのでよろしくお願いいたします。



温井 元(岩見沢市)



西村 榮二(江別市)



伊藤 正吉(札幌市)



地域農業の担い手、
JA青年組織盟友を
応援する雑誌



年2回の別冊付録は一つのテーマを掘り下げ、わかりやすく解説

お問い合わせ 営農企画課 Tel 88-2232

理事会報告 - 第6回 -

《令和5年6月23日開催》

[議案]

- 第1号 担い手支援事業について
- 第2号 共同計算の精算について
- 第3号 再建農家並びにC階層農家の経済動向について
- 第4号 農地利用集積円滑化事業に係る賃貸借料の見直しについて
- 第5号 組合と理事との契約承認について
- 第6号 組合員の出資持分譲渡について
- 第7号 固定資産の取得について
- 第8号 マネロンガイドラインに基づくギャップ分析について

[報告事項]

1. 会議・行事報告について
2. 組合員の加入及び脱退の状況について
3. 利益相反取引の実行報告について
4. 農作物生育状況等について
5. 新規就農者について
6. 水稻カメムシ防除体制について
7. 麦バラ施設運営協議会並びに自主検定委員会提出議案について
8. 令和5年度 農産物出荷契約状況について
9. 令和5年度 野菜・花き市況等について
10. 土壌病害等蔓延防止に係る啓蒙について
11. 令和5肥料年度 肥料価格について
12. グリーンパートナー実行委員会の取組みについて
13. 共済集中推進について
14. 事業推進員会議の開催について
15. 顧客属性照会システム(CCS)定期確認について
16. 体制整備モニタリングの報告について
17. 内部監査報告について
18. 職員定時手当の支給について
19. その他

以上、すべての議案について審議し原案通り承認されました。

今月の組合員数 (前月比)

組合員 1,546名(－3)
 正組合員 806名(+3)
 准組合員 740名(－6)
 正組合員戸数 625戸(+2)

農協の動き 5/23～6/23

5月

23日	空知管内JA常参協議会総会・全体常参総会議	於 札幌市
23～26日	内部監査(中央会)	於 営農企画課・経営相談課 米穀畜産課・園芸蔬菜課
24日	職員採用試験(筆記)	於 農協
24日	長沼町酪農ヘルパー組合・乳牛検定組合・酪農組合定期総会	於 農協
25日	長沼町観光協会総会	於 役場
29日	長沼振興公社取締役会・株主総会	於 役場
29～6月2日	経営所得安定対策申請受付	於 農協
29～6月2日	農産物出荷契約	於 農協
29～6月2日	営農資材取りまとめ	於 農協
31日	中央会経営ヒアリング	於 農協

6月

1日	農業農村整備推進委員会	於 札幌市
5日	空知管内JA組合長会総会・空知管内JA組合長会議	於 岩見沢市
6日	空知管内JA専務協議会総会・専務会議	於 岩見沢市
6～8日	農業用廃ビニール類回収	於 麦バラ施設
7・9日	無通告監査(常勤監事・内部監査室)	於 営農資材課 米穀畜産課(農業倉庫)
9日	ブロッコリー共選場操業開始	於 共選場
12日	監事会	於 農協
12～14日	第1四半期自治監査	於 農協
13日	長沼町農地・水・環境保全向上対策協議会総会	於 長沼土地改良区
14日	年金友の会パークゴルフ大会 参加27名	於 運動公園
14日	種いも第1期防疫検査	於 種いもほ場
15日	農協役員OB会定期総会	於 上川・十勝方面
16日	栗山地区警察官友の会会員総会	於 栗山町
19日	営農委員会	於 農協
19日	総務経済対策委員会	於 農協
20日	長沼町地域公共交通活性化協議会	於 役場
20日	長沼農業振興戦略会議	於 農協
20～21日	中央会・各連合会総会	於 札幌市
21日	トマト共選場操業開始	於 共選場
22日	花き共選場操業開始	於 共選場
23日	理事会	於 農協
23日	役員研修会	於 農協



JA だより ながめま
 2023. 7月号 No. 353

〒069-1393 夕張郡長沼町銀座北1丁目5番19号
 発行/ながめま農業協同組合 営農部営農企画課
 TEL/0123-88-2226 FAX/0123-88-4113
 URL/http://www.ja-naganuma.or.jp